

編集後記

このたび、編集委員会の末席に加えていただき、「日本小児循環器学会雑誌」の編集業務に携わることになりました。編集委員に課せられた業務として、本誌に「受理」されたすべての論文に目を通して、最終チェックを行いますが、さすがに優れた論文が目白押しで感心させられます。特に各領域のエキスパートによって執筆された「総説」はいずれも力作揃いで大変勉強になります。

多くの学会誌が英文誌に移行するなか、本誌は数少ない「邦文誌」として、特に若手会員が「基本的な知識を得る」ことと、「自ら原著論文や症例報告を投稿する」場として貴重な役割を担っていると思われまます。若い先生方の積極的な投稿を歓迎いたします。

さて、論文を投稿するにあたって、その論文が「学術的に優れた内容である」ことはもちろん重要なことですが、同時に「正しい日本語で書かれている」必要があります。最近、他誌の査読をしていたり、学会場での口述発表を聴いていたりすると「?????」という文章にしばしば遭遇いたします。「生直後より多呼吸と心雑音を認め、紹介医を受診、心エコー検査にて大動脈縮窄+心室中隔欠損を認めたため、外科治療が必要と判断され、当院に緊急搬送となった。」この文章を正しい日本語で記載すると「生直後より多呼吸と心雑音を指摘され、紹介医を受診。心エコー検査にて大動脈縮窄+心室中隔欠損と診断された。外科治療が必要と判断され、当院に緊急搬送された。」となります。文章が句読点で適切に区切られていないと、途中で「主語」が変化したり、「能動態と受動態」が混在したりしてしまいます。最近「認める」という単語を頻りに耳にするようになりました。「改善を認める」、「低下を認める」、「心雑音を認める」、「ファロー四徴症を認める」、正しくは「改善する」、「低下する」、「心雑音を聴取する」、「ファロー四徴症と診断される」となります。

何度も推敲を重ねて正しい文章を書く習慣をつけていくうちに、自然と「よく整理された科学的な思考法」が身についていきます。学術論文に文学的な表現は必要ありません。簡潔にして明瞭、正しい文章を心がけてください。

(芳村直樹)